

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ E型肝炎の報告が1例(70歳代男性)があり、症状は全身倦怠感、肝機能異常です。感染地域は国内で、感染経路は経口感染です。本年初めての報告となっています。
- ・ A型肝炎の報告が2例(70歳代男性及び40歳代女性)ありました。2例とも感染地域は国内で、感染経路は経口感染です。本年の累積報告数は9例となりました。
- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が2例(70歳代男性2例)ありました。2例ともに感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(70歳代女性)ありました。症状は発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症です。感染地域は国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年の累積報告数は52例となりました。
京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>
- ・ 梅毒(無症候)の報告が1例(80歳代女性)ありました。症状はなく、感染地域、感染経路は不明です。本年の累積報告数は41例となりました。
- ・ 手足口病が増加しています。手洗いなどの徹底で予防してください。
京都市では、手足口病のリーフレットを発行しています。手洗い方法、リーフレットについては下記URLを御参照ください。
○京都市衛生環境研究所ホームページ「手洗いの方法」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>
○こどもの感染症リーフレット「手足口病」(衛生環境研究所)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/teashikutibyouty.pdf>
○こどもの感染症ポスター7月号
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>

◆ 今週のトピックス:<性感染症>

6つの性感染症(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、梅毒、後天性免疫不全症候群)について平成12年からの報告数の推移を紹介しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 2例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 188例(肺結核 77例, その他結核 47例, 潜在性結核感染者 64例)うち喀痰塗抹陽性 42例】
- ・ 四類: E型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類: A型肝炎 2例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 2例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 52例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 41例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

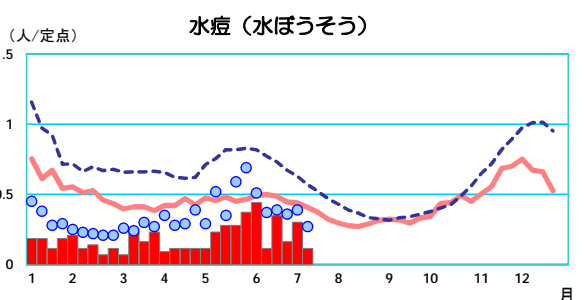
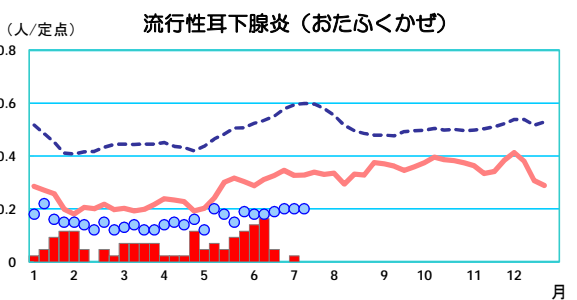
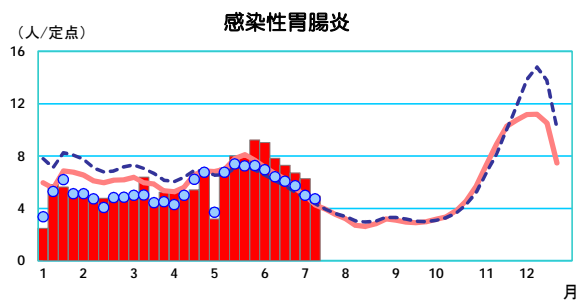
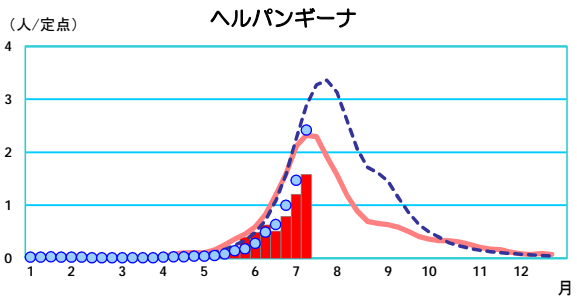
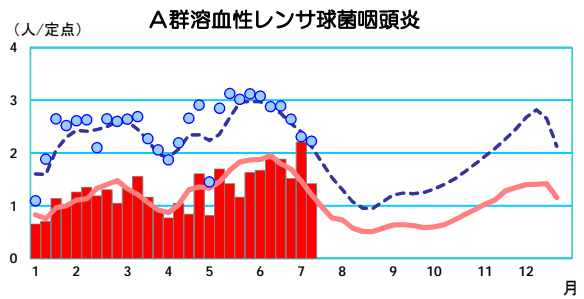
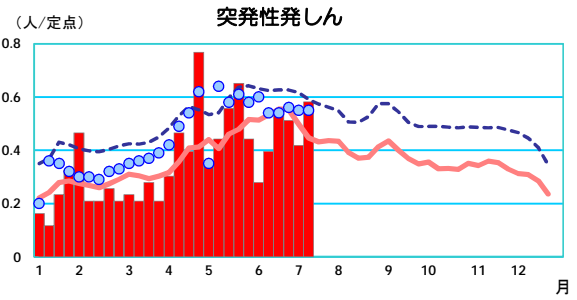
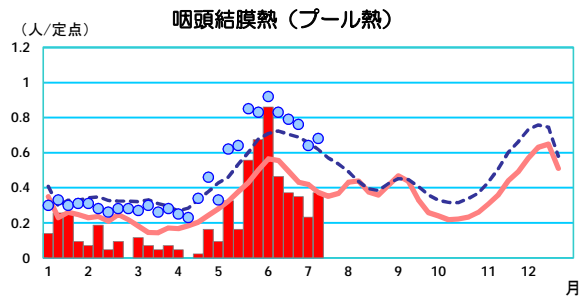
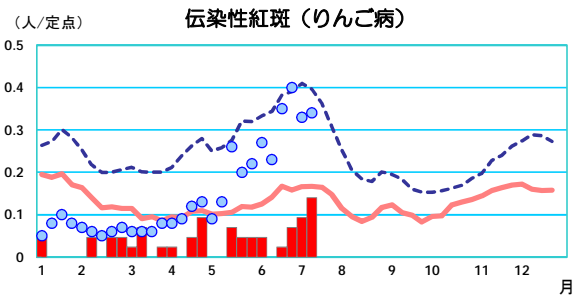
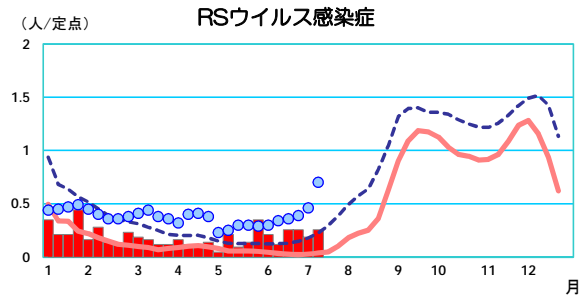
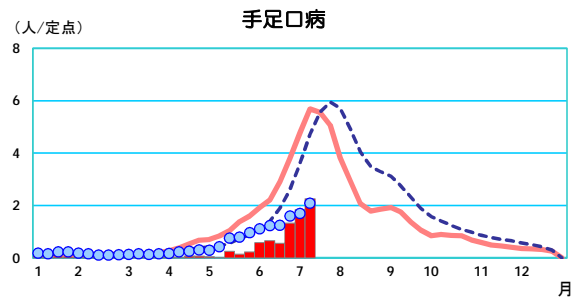
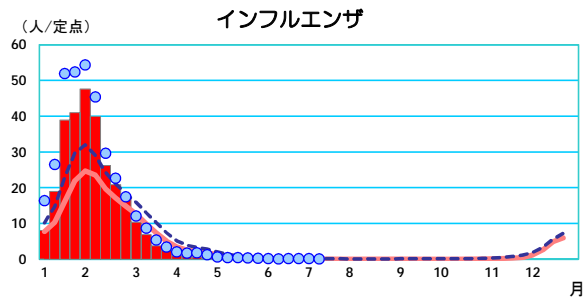
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.95	213
	② 手足口病	2.26	97
	③ ヘルパンギーナ	1.58	68
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.42	61
	⑤ 突発性発しん	0.58	25
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<性感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年7月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第28週(7月9日～7月15日)トピックス: <性感染症>

性的接触で感染する感染症を性感染症といい、多くの疾患がありますが、そのうち、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の4疾患は、感染症法上、五類感染症の定点把握感染症(性感染症定点医療機関が月単位で報告)に指定されています。京都市では13(産婦人科7, 泌尿器科4, 皮膚科2)、全国では約1,000の定点医療機関から毎月報告があります。一方、梅毒及び後天性免疫不全症候群の2疾患は五類感染症の全数把握感染症に指定されており、診断した全ての医師から報告があります。

まず、定点医療機関から報告される4疾患について平成12年から29年の推移を見ると、性器クラミジア感染症は、京都市ではおおむね横ばいでした。全国では平成14年にピークがあり、その後減少、近年はほぼ横ばいです(図1)。性器ヘルペスウイルス感染症は、京都市では平成24年から減少傾向にありましたが、27年から増加に転じています。全国では平成19年から減少しましたが、21年以降は横ばいないし微増傾向で、長期的にみると、京都市は全国と似た傾向にあります(図2)。尖圭コンジローマは、京都市では各年で差はあるものの、微増傾向にありましたが平成29年は大きく減少しました。全国では、平成17年にピークがあり、その後減少、平成24年から微増ないし横ばい傾向にあります(図3)。淋菌感染症は、京都市では横ばい状態が続いています。全国では平成14年にピークがあり、平成20年にかけて大きく減少し、平成21年に10.0を下回って以降は横ばいないし微減傾向となっています(図4)。性器ヘルペスウイルス感染症を除くどの感染症も、期間を通じて京都市の定点当たり報告数は全国を下回っています。

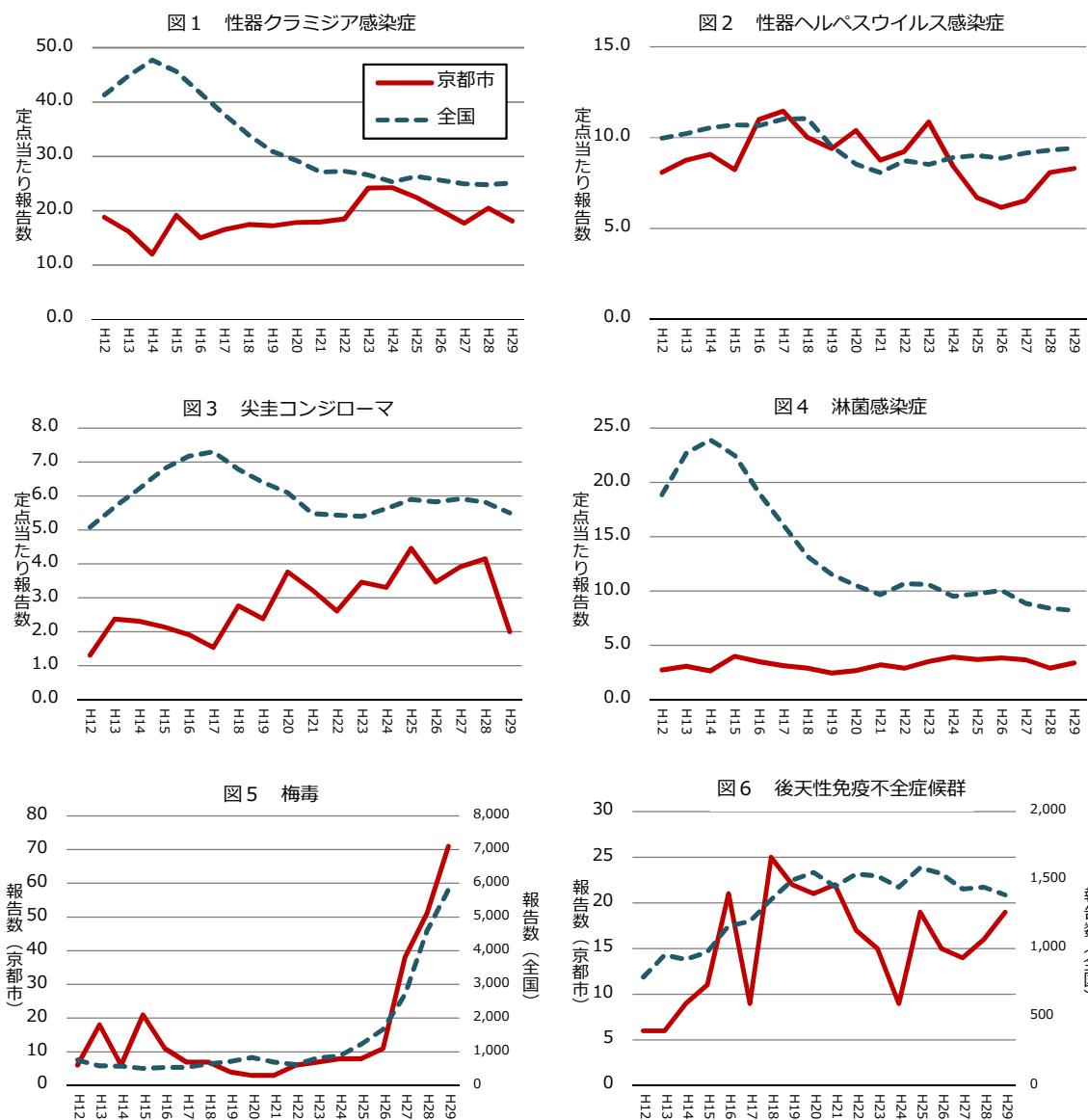
次に、全数把握感染症である梅毒と後天性免疫不全症候群の推移を見ると、梅毒は、京都市では平成17年から25年は10例を下回っていましたが、平成26年に10例を上回って以降、急速に報告数が増えています。全国では平成25年に1,200例を超えてから増加傾向となり、京都市同様、ここ数年は急速に増加しています(図5)。後天性免疫不全症候群は、京都市では年によって違いはあるものの、おおむね10例から25例程度で推移しています。全国では、平成19年まで増加傾向、その後横ばいとなっています(図6)。

性感染症の推移で、特に注目されるのは梅毒です。近年の梅毒の発生動向は報告数だけでなく、性別や年齢別の構成比が大きく変化しています。背景には不特定多数との性行為の増加があると見られています。性感染症の感染経路は性的接触であり、複数の感染症に同時に罹患する場合もあるため、梅毒の急増は、他の性感染症も増加する可能性を示唆しています。

ほとんどの性感染症は薬で治療できますが、一旦完治しても何度も感染します。また、後天性免疫不全症候群や性器ヘルペスウイルス感染症などは根治できません。このため、不特定多数の人と性的接触をしないことや性行為時にコンドームを使用することなど、予防が非常に重要です。予防していても、皮膚や粘膜に異常があった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

性感染症の正しい知識を身につけることも重要です。京都市衛生環境研究所では、機関誌「京都市衛生環境研究所にゆーす」で、梅毒を含む性感染症について病気の症状や予防方法を分かりやすく御紹介しています。ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成29年度第1号)「性感染症」って何？
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第28週

疾病,行政区別報告数

平成30年7月9日～平成30年7月15日

データ入手日:平成30年7月18日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	3					
北	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	3					
上京	-	1	-	5	9	-	10	-	2	4	-	-	-					
左京	2	-	-	8	55	1	9	-	4	5	-	-	-					
中京	-	1	1	5	4	-	6	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	6	-	1	15	1	3	-	-	1	-	-	-					
山科	-	1	-	21	3	-	4	5	3	1	-	-	2					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	1	-	8	-	5	-	-	6	-	-	-					
右京	-	2	13	7	27	-	29	-	3	18	-	-	-					
伏見	-	-	1	10	60	2	20	1	9	17	-	-	1					
西京	-	-	-	4	31	-	11	-	2	8	-	-	-					
京都市計	2	11	16	61	213	5	97	6	25	68	-	-	6	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	0.25	0.25	-	-	0.25	-	-	-	3.00					
北	-	-	-	-	0.25	0.25	-	-	0.25	-	-	-	3.00					
上京	-	0.33	-	1.67	3.00	-	3.33	-	0.67	1.33	-	-	-					
左京	0.29	-	-	2.00	13.75	0.25	2.25	-	1.00	1.25	-	-	-					
中京	-	0.33	0.33	1.67	1.33	-	2.00	-	0.33	2.67	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	3.00	-	0.50	7.50	0.50	1.50	-	-	0.50	-	-	-					
山科	-	0.20	-	4.20	0.60	-	0.80	1.00	0.60	0.20	-	-	2.00					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	0.33	-	2.67	-	1.67	-	-	2.00	-	-	-					
右京	-	0.40	2.60	1.40	5.40	-	5.80	-	0.60	3.60	-	-	-					
伏見	-	-	0.14	1.43	8.57	0.29	2.86	0.14	1.29	2.43	-	-	0.50					
西京	-	-	-	0.80	6.20	-	2.20	-	0.40	1.60	-	-	-					
京都市計	0.03	0.26	0.37	1.42	4.95	0.12	2.26	0.14	0.58	1.58	-	-	0.60	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第28週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年7月9日～平成30年7月15日

データ入手日:平成30年7月18日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	11	2	2	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		16	-	-	8	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		61	1	1	5	7	7	7	5	6	5	6	5	1	1	4	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		213	2	25	32	18	13	16	19	17	9	10	7	18	8	19	-	-	-	-	-	-	
水痘		5	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		97	-	5	34	27	10	11	5	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		6	-	-	-	-	2	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		25	-	6	14	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		68	-	3	23	15	4	11	1	5	-	2	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		年齢2	6	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.03	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	0.26	0.05	0.05	0.12	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.37	-	-	0.19	0.07	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.42	0.02	0.02	0.12	0.16	0.16	0.16	0.12	0.14	0.12	0.14	0.12	0.02	0.02	0.09	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		4.95	0.05	0.58	0.74	0.42	0.30	0.37	0.44	0.40	0.21	0.23	0.16	0.42	0.19	0.44	-	-	-	-	-	-	
水痘		0.12	-	-	0.02	0.02	-	-	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		2.26	-	0.12	0.79	0.63	0.23	0.26	0.12	0.02	0.02	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.14	-	-	-	-	0.05	0.02	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.58	-	0.14	0.33	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		1.58	-	0.07	0.53	0.35	0.09	0.26	0.02	0.12	-	0.05	0.02	-	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		年齢2	0.60	-	-	-	0.30	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.10	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第28週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年7月18日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	5	-	-	2	-	2
RSウイルス感染症	9	5	11	11	8	11
咽頭結膜熱	37	20	16	15	10	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	81	81	65	95	61
感染性胃腸炎	388	337	314	288	270	213
水痘	19	5	15	7	13	5
手足口病	25	28	24	57	79	97
伝染性紅斑	2	-	1	3	4	6
突発性発しん	12	17	23	22	18	25
ヘルパンギーナ	21	27	22	34	52	68
流行性耳下腺炎	6	7	2	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	6	4	6	2	6
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	598	533	513	510	552	510

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.07	-	-	0.03	-	0.03
RSウイルス感染症	0.21	0.12	0.26	0.26	0.19	0.26
咽頭結膜熱	0.86	0.47	0.37	0.35	0.23	0.37
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.67	1.88	1.88	1.51	2.21	1.42
感染性胃腸炎	9.02	7.84	7.30	6.70	6.28	4.95
水痘	0.44	0.12	0.35	0.16	0.30	0.12
手足口病	0.58	0.65	0.56	1.33	1.84	2.26
伝染性紅斑	0.05	-	0.02	0.07	0.09	0.14
突発性発しん	0.28	0.40	0.53	0.51	0.42	0.58
ヘルパンギーナ	0.49	0.63	0.51	0.79	1.21	1.58
流行性耳下腺炎	0.14	0.16	0.05	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.60	0.40	0.60	0.20	0.60
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	14.02	12.86	12.24	12.30	12.99	12.30

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。